



紙芝居「マー君いいところあるじゃん」

(中学年向け)

製作・脚本:「小さな親切」運動本部 絵:鶴岡 安通志(13枚・表紙含む)

① 放課後の掃除の時間、マー君は、ほうきを振り回して、まじめに掃除をしてはくれません。サッチャンが注意をしても、やめようとはせず、掃除が終わると、ほうきを捨てて、どこかへかけて行ってしまいました。



② サッチャンは学級委員の一郎君に、人の邪魔ばかりするマー君を注意してくれるように言います。でもおとなしい性格の一郎君には、注意はできません。これまでは、できるだけ関わらないようにしてきました。



③ ある日の放課後、マー君は巣から落ちたつばめのヒナを拾います。ぐったりしているヒナを見て心配したマー君は、大事そうに抱えました。クラスのみんかも心配そうにしています。



④ マー君は懸命にヒナの世話をしました。その様子を見ていた一郎君は、「ヒナに触っているのかな」「先生を呼んでこようか」と思いながらも、ただマー君の姿を見つめていました。



⑤ マー君がいくら手当をしても、ヒナはぐったりしたまま動きません。涙を浮かべて、ぼうぜんとしていたマー君を、クラスメイトは遠巻きに見て、帰って行きました。



⑥ とうとうヒナに水を飲ませることをあきらめたマー君。ヒナをぎゅっと抱きしめると、校庭の片隅に穴を掘り、ヒナを埋めました。最後まで残っていた一郎君は、何も言えず、ただマー君を見ていました。



⑦ 次の日、クラスはつばめのヒナの話でもちきりです。早く先生に言えばよかったという友達に対し、一郎君はマー君をかばうような発言をしました。



⑧ 昨日からずっとマー君を見ていた一郎君は、今一番ショックを受けているのはマー君ではないか、と考えます。そして今まで嫌っていたけれど、マー君にはやさしい一面がある、ということに気づきます。



⑨ それからマー君の行動をよく見るようになった一郎君、ある日の放課後、ダッシュでかけていくマー君を追いかけました。校舎の一角をじっと見つめるマー君に、一郎君は思い切って声をかけてみました。



⑩ 何を見ているのか尋ねる一郎君に、マー君はつばめの巣を指さし、ヒナが急にいなくなって、親鳥が心配しているのではないか、というのです。一郎君は、「やっぱりマー君いいところあるじゃん」と思いました。



⑪ 校庭の花壇で花を摘んでいるマー君を、サッチャンがとがめます。でもマー君はそれを聞かずに、校庭の隅に走って行ってしまいました。



⑫ マー君が摘んだ花を校庭の隅に置いていったことを、サッチャンは不思議に思いますが、一郎君は、そこがつばめのヒナの墓であることを教えます。サッチャンも、マー君の良さに気づきました。

